



スイッチをネットワークに接続する



(注) この章の図は、特に指示がない限り参照専用です。シャーシの実際の外観とサイズは異なる場合があります。

- [スイッチへのコンソール接続 \(1 ページ\)](#)
- [管理インターフェイスの接続 \(3 ページ\)](#)
- [トランシーバ、コネクタ、およびケーブル \(4 ページ\)](#)
- [QSFP トランシーバモジュールの取り付けおよび取り外し \(5 ページ\)](#)
- [インターフェイス ポートの接続 \(10 ページ\)](#)
- [トランシーバおよび光ケーブルのメンテナンス \(11 ページ\)](#)
- [初期スイッチ設定の作成 \(11 ページ\)](#)

スイッチへのコンソール接続

スイッチをネットワーク管理接続するか、スイッチをネットワークに接続する前に、コンソール端末でローカルの管理接続を確立して、スイッチの IP アドレスを設定する必要があります。スイッチには SSH および Telnet などのリモート管理プロトコルを使用してアクセスできます。デフォルトでは、SSH がソフトウェアイメージに含まれています。ただし、Telnet はソフトウェアイメージには含まれていません。telnet オプションパッケージを使用するには、手動でインストールする必要があります。

コンソールを使用し、次の機能を実行することもできます。それぞれの機能は、その接続を確立したあとで管理インターフェイスによって実行できます。

- コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してスイッチを設定
- ネットワークの統計データとエラーを監視する
- 簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) エージェント パラメータを設定する
- コンソールを介してソフトウェアダウンロードアップデートを開始する

スーパーバイザ モジュールの非同期シリアル ポートと非同期伝送に対応したコンソール デバイス間で、このローカル管理接続を行います。通常、コンピュータ端末をコンソールデバイスとして使用できます。スーパーバイザモジュールのコンソールシリアルポートを使用します。



- (注) コンソールポートをコンピュータ端末に接続する前に、コンピュータ端末でVT100 端末エミュレーションがサポートされていることを確認してください。端末エミュレーションソフトウェアにより、セットアップ中および設定中にスイッチとコンピュータ間の通信が可能になります。

始める前に

- スイッチはラックに完全に取り付ける必要があります。スイッチは電源に接続し、接地する必要があります。
- コンソール、管理、およびネットワーク接続に必要なケーブルが利用可能である必要があります。
 - RJ45 ロールオーバーケーブルと DB9F/RJ45 アダプタ。
 - ネットワーク ケーブルは、設置したスイッチの場所にすでにルートしてあります。

手順

ステップ 1 次のデフォルトのポート特性と一致するように、コンソール デバイスを設定します。

- 115200 ボー
- 8 データ ビット
- 1 ストップ ビット
- パリティなし

ステップ 2 RJ45 ロールオーバーケーブルを端末、PC 端末エミュレータ、または端末サーバに接続します。

RJ45 ロールオーバーケーブルは、アクセサリキットには含まれていません。

ステップ 3 必要に応じて RJ45 ロールオーバーケーブルを配線し、シャーシのコンソールポートにケーブルを接続します。

コンソールまたはモデムで RJ45 接続を使用できない場合は DB9F/RJ45F PC 端末アダプタを使用します。または、RJ45/DSUB F/F アダプタまたは RJ45/DSUB R/P アダプタを使用できます。ただし、これらのアダプタは別途に用意する必要があります。

次のタスク

スイッチの初期設定を作成する準備が整いました。

管理インターフェイスの接続

スーパーバイザ モジュールの管理ポート (MGMT ETH) はアウトオブバンド管理を提供するもので、これによってコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用して IP アドレスでスイッチを管理できます。このポートでは、RJ-45 インターフェイスで 10/100/1000 イーサネット接続が使用されます。



- (注) デュアルスーパーバイザモジュールスイッチでは、両方のスーパーバイザモジュールの管理インターフェイスをネットワークに接続することにより、アクティブなスーパーバイザモジュールが常にネットワークに接続されるようにすることができます。つまり、スーパーバイザモジュールごとにこのタスクを実行できます。スーパーバイザモジュールがアクティブなときには、ネットワークから実行され、アクセス可能な管理インターフェイスをスイッチで自動的に使用できるようになります。



- 注意** IP アドレスの重複を防ぐために、初期設定が完了するまでは、MGMT 100/1000 イーサネットポートを接続しないでください。

始める前に

初期スイッチ設定を完了しておく必要があります。

手順

- ステップ 1** モジュラ型 RJ-45 UTP ケーブルをスーパーバイザモジュールの MGMT ETH ポートに接続します。
- ステップ 2** ケーブル管理システムの中央スロットにケーブルを通します。
- ステップ 3** ケーブルの反対側をネットワーク デバイスの 100/1000 イーサネットポートに接続します。

次のタスク

各ラインカードのインターフェイスポートをネットワークに接続することができます。

トランシーバ、コネクタ、およびケーブル

トランシーバおよびケーブルの仕様

このスイッチでサポートされているトランシーバとケーブルについては、[シスコ トランシーバ モジュールの互換性情報](#)を参照してください。

トランシーバの仕様と取り付けに関する情報を確認するには、『[Cisco Transceiver Modules Install and Upgrade Guides](#)』を参照してください。

RJ-45 コネクタ

RJ-45 コネクタは、カテゴリ 3、カテゴリ 5、カテゴリ 5e、カテゴリ 6、カテゴリ 6A のいずれかのフォイル ツイストペア ケーブルまたはシールドなしツイストペア ケーブルを、外部ネットワークから次のモジュール インターフェイス コネクタに接続します。

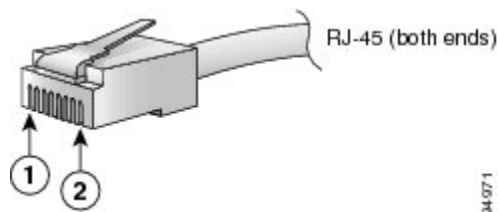
- スイッチ シャーシ
 - CONSOLE ポート
 - MGMT ETH ポート



注意 GR-1089 の建物内雷サージ耐性要件に適合するためには、両端に適切なアースを施したフォイル ツイストペア (FTP) ケーブルを使用する必要があります。

次の図は、RJ-45 コネクタを示しています。

図 1: RJ-45 コネクタ



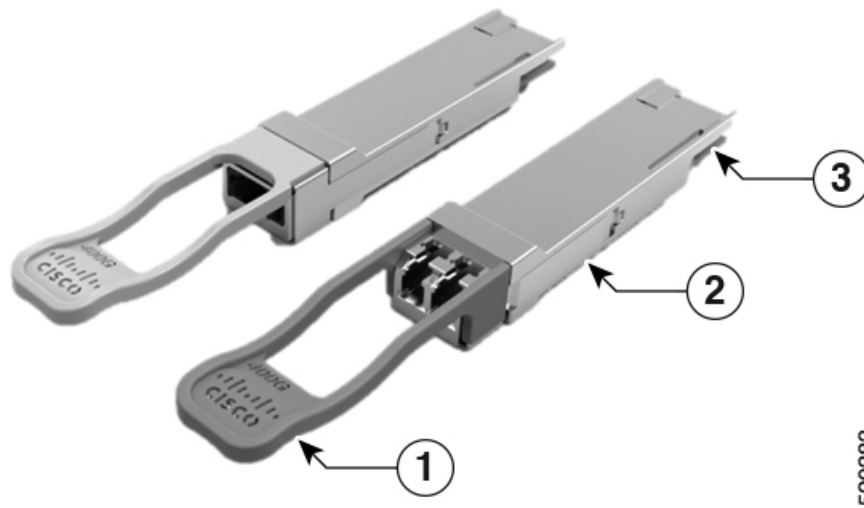
1	ピン 1	2	ピン 8
---	------	---	------

QSFP トランシーバモジュールの取り付けおよび取り外し

ここでは、Quad Small Form-Factor Pluggable トランシーバモジュールの取り付け、配線、取り外しについて説明します。光トランシーバの詳細については、『[Cisco Optical Transceiver Handling Guide](#)』を参照してください。

次の図に、400 ギガビット QSFP-DD 光トランシーバを示します。

図 2: 400 ギガビット QSFP-DD トランシーバモジュール



1	プルタブ	2	QSFP-DD トランシーバ本体
3	モジュール回路への電気接続		

必要な工具と部品

トランシーバモジュールの取り付けには次の工具が必要です。

- ESD（静電放電）の発生を防止するためのリストストラップまたはその他の個人用アース装置
- トランシーバを置くための静電気防止用マットまたは静電気防止材
- 光ファイバ端面のクリーニング ツールおよび検査機器

トランシーバモジュールの取り付け



注意 トランシーバモジュールは、静電気の影響を受けやすいデバイスです。トランシーバモジュールを取り扱ったり、システムモジュールに触れたりする場合は、静電気防止用リストストラップのような個別の接地デバイスを常に使用してください。



注意 使用していないポートにクリーンダストキャップ (NXA-ACC-QDD-DC) を挿入してトランシーバのポートを保護します。ファイバケーブルを別のモジュールの光ポートに差し込む場合は、その前に、必ずファイバケーブルの光学面をクリーニングしてください。シャーシの開いているすべてのポートにダストキャップを使用します。

スイッチにはダストキャップが装着された状態で出荷されます。光ファイバを接続する準備が整うまで、ダストキャップを装着したままにしておくことを強く推奨します。

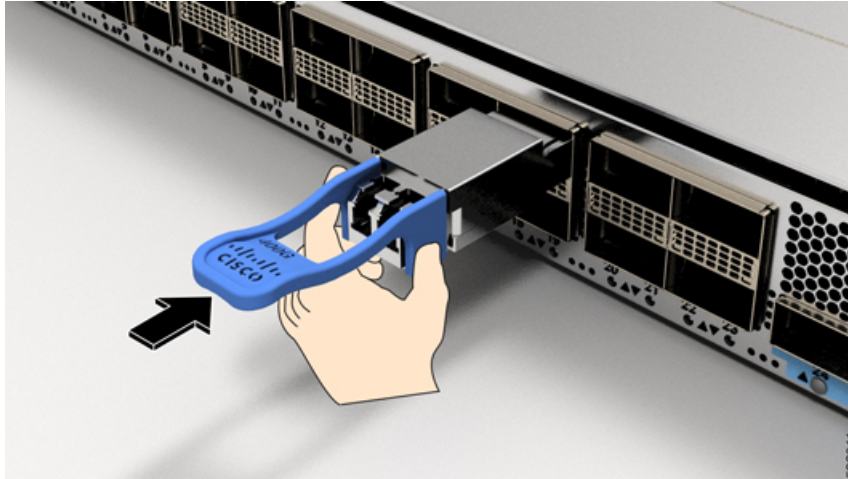
ダストキャップは、ポートを EMI 干渉から保護し、集塵による汚染を防ぎます。EMI 干渉の要件を満たすために、ポートが光モジュールで使用されていない場合は、金属製ダストキャップを使用する必要があります。

QSFP トランシーバモジュールにはプルタブラッチがあります。トランシーバモジュールを取り付けるには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 静電気防止用リストストラップを自分自身とシャーシまたはラックの適切な接地点に取り付けます。
- ステップ 2** トランシーバモジュールを保護パッケージから取り外します。
- ステップ 3** トランシーバモジュール本体のラベルを調べて、使用しているネットワークに適合するモデルであることを確認します。ダストプラグは、ネットワーク インターフェイス ケーブルを取り付ける準備が整うまで外さないでください。ダストプラグは画像には示されていません。
- ステップ 4** ID ラベルが上になるように、トランシーバのプルタブを持ちます。
- ステップ 5** トランシーバモジュールをトランシーバソケット開口部の前面に合わせ、ソケットの電気コネクタに接触するまでトランシーバをソケットに慎重に挿入します。

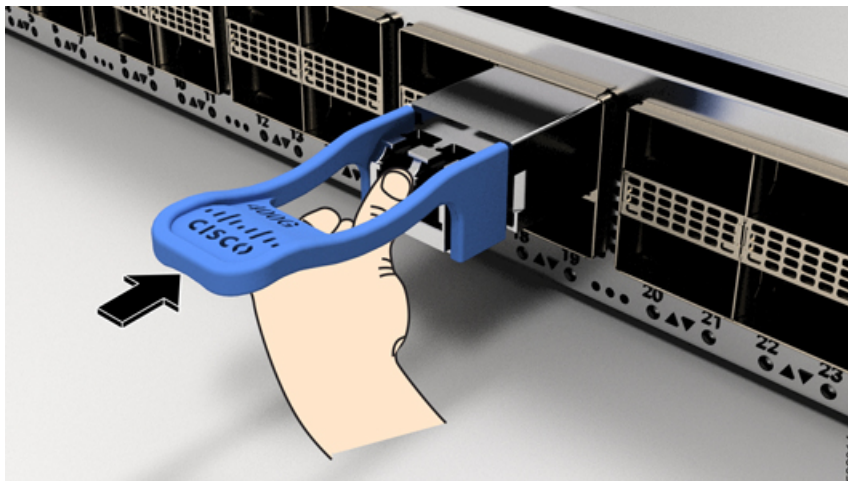
図 3: QSFP トランシーバモジュールの取り付け



ステップ 6 モジュールのトランシーバソケットに完全に装着されるまで、トランシーバモジュールの前面を親指でしっかりと押します（下記の図を参照）。

注意 ラッチが完全にかみ合っていないと、トランシーバモジュールが突然外れることがあります。

図 4: QSFP トランシーバモジュールの装着



光ネットワーク ケーブルの接続

始める前に

ダスト プラグを取り外して光接続を確立する前に、次の注意事項に従ってください。

- 接続の準備が整うまで、未接続の光ファイバケーブルコネクタとトランシーバの光ボアに保護用ダストプラグを付けておきます。
- 接続の直前に、光コネクタの終端を点検および清掃してください。
- 光ファイバケーブルを抜き差しするときは、光コネクタハウジングだけをつかんでください。



(注) トランシーバモジュールとファイバコネクタには、誤挿入を防ぐためのキーが付いています。



(注) 光トランシーバのマルチファイバ プッシュオン (MPO) コネクタは、物理接触 (PC) または超物理的接触 (UPC) フラット研磨面タイプのネットワーク インターフェイス ケーブルに対応しています。光トランシーバの MPO コネクタは、斜め研磨接触 (APC) 面タイプのネットワーク インターフェイス ケーブルには対応していません。

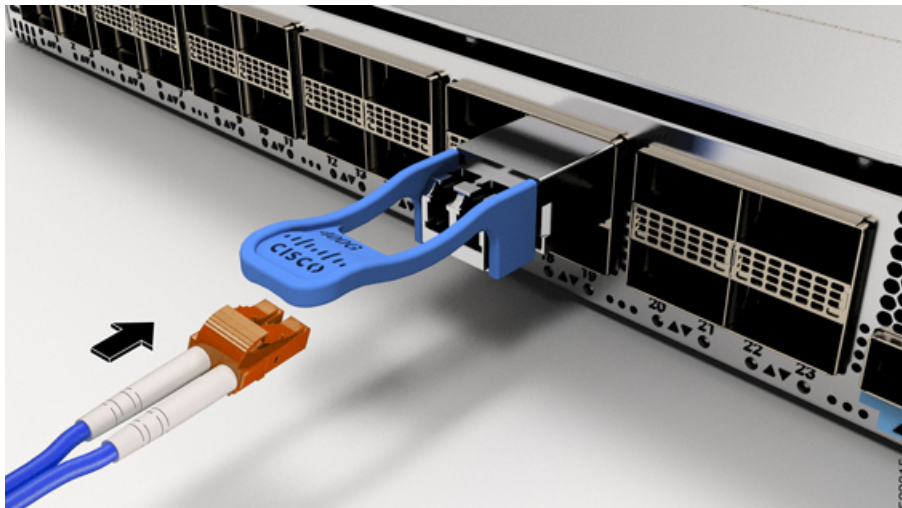


(注) 適切なケーブルタイプ、清潔さ、および損傷の有無について MPO コネクタを検査します。光ファイバ接続の検査と清掃方法の詳細については、『[Inspection and Cleaning Procedures for Fiber-Optic Connections](#)』マニュアルを参照してください。

手順

- ステップ 1** 光ネットワーク インターフェイス ケーブルの MPO コネクタとトランシーバモジュールの光ボアからダストプラグを取り外します。ダストプラグは将来の使用に備えて保管しておいてください。
- ステップ 2** ネットワーク インターフェイス ケーブルの MPO コネクタをトランシーバモジュールにただちに接続します。

図 5: トランシーバモジュールのケーブル配線



トランシーバモジュールの取り外し



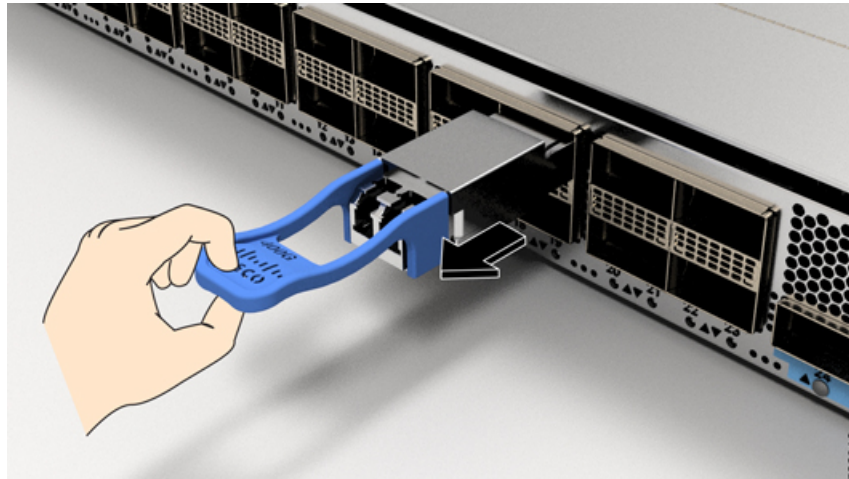
注意 トランシーバモジュールは、静電気の影響を受けやすいデバイスです。トランシーバモジュールを取り扱う場合やモジュールに触れる場合には、必ず ESD リストストラップまたは同様の接地デバイスを使用してください。

トランシーバモジュールを取り外す手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** トランシーバコネクタからネットワーク インターフェイス ケーブルを取り外します。
- ステップ 2** トランシーバの光ボアにダストプラグをただちに取り付けます。
- ステップ 3** プルタブを持ってゆっくりと引き、トランシーバをソケットから解除します。

図 6: QSFP トランシーバモジュールの取り外し



ステップ 4 トランシーバをスライドさせてソケットから抜き取ります。

ステップ 5 トランシーバモジュールを静電気防止袋に収納します。

インターフェイスポートの接続

ネットワーク接続のために、ラインカード上の光インターフェイスポートを他のデバイスに接続できます。

ネットワークへの光ファイバポートの接続

使用しているラインカードのモデルに応じて、QSFP-DD、QSFP28、またはQSFP+ トランシーバを使用できます。一部のトランシーバはトランシーバに接続する光ファイバケーブルで動作し、その他のトランシーバは事前に接続されている銅ケーブルで動作します。トランシーバに光ファイバケーブルを取り付ける前に、ポートにトランシーバを取り付ける必要があります。



注意 トランシーバの取り付けおよび取り外しを行うと、耐用年数が短くなります。トランシーバの取り外しや取り付けは、本当に必要な場合以外に行わないでください。トランシーバの取り付けまたは取り外しを行う際は、ケーブルやトランシーバの破損を防止するため、ケーブルを抜いた状態で行うことを推奨します。

ネットワークからの光ポートの取り外し

光ファイバ トランシーバを取り外す必要がある場合は、光ファイバケーブルをトランシーバから取り外してから、トランシーバをポートから外す必要があります。

トランシーバおよび光ケーブルのメンテナンス

光ファイバ接続の検査手順とクリーニング手順については、『[Inspection and Cleaning Procedures for Fiber-Optic Connections](#)』を参照してください。

初期スイッチ設定の作成

スイッチ管理インターフェイスに IP アドレスを割り当て、スイッチをネットワークに接続できるようにします。

初めてスイッチの電源を入れると、スイッチが起動して設定関連の質問が表示されます。ユーザが指定する必要がある IP アドレス以外の各設定にはデフォルトを使用できます。

システムの電源がオンになり、コンソールポートが端末に接続されると RP CPU メッセージが表示されます。ホットキーシーケンス **Ctrl+O** を押すと、RP CPU メッセージを切り替えることができます。

始める前に

- コンソール デバイスをスイッチに接続する必要があります。
- スイッチを電源に接続する必要があります。
- 管理インターフェイス (MgmtEth0/RP0/CPU0/0 と MgmtEth0/RP1/CPU0/0) に必要な IP アドレスとネットマスクを決定します。

手順

ステップ 1 スイッチの電源をオンにします。

電源モジュールユニットがスイッチに電力を送信すると、各電源モジュールの LED がグリーンに点灯し、スイッチで使用するパスワードを指定するように求められます。

ステップ 2 システムを初めて起動すると、新しいユーザ名とパスワードが作成されます。次のプロンプトが表示されます。

```
!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!! NO root-system username is configured. Need to configure root-system
username. !!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

--- Administrative User Dialog ---

Enter root-system username:
% Entry must not be null.

Enter root-system username: cisco
Enter secret:
```

```
Use the 'configure' command to modify this configuration.
User Access Verification
```

```
Username: cisco
Password:
```

```
RP/0/RP0/CPU0:ios#
```

ステップ3 このスイッチに使用する新しいパスワードを入力します。

パスワードのセキュリティ強度が確認され、強力なパスワードであると見なされない場合、そのパスワードは拒否されます。パスワードのセキュリティ強度を上げるには、次のガイドラインにパスワードが従っていることを確認します。

- 最低 8 文字
- 連続した文字（「abcd」など）の使用を最低限にするか、または使用しない
- 文字の繰り返し（「aaa」など）を最低限にするか、または使用しない
- 辞書で確認できる単語が含まれない
- 正しい名前を含んでいない
- 大文字および小文字の両方が含まれている
- 数字と文字が含まれている

(注) 平文のパスワードには、特殊文字のドル記号 (\$) を含めることはできません。

ヒント パスワードが脆弱な場合（短く解読されやすいなど）はそのパスワードを拒否します。パスワードは大文字と小文字が区別されます。

強力なパスワードを入力すると、パスワードを確認するように求められます。

ステップ4 パスワードを再度入力します。

同じパスワードを入力すると、パスワードが受け入れられます。

ステップ5 コンフィギュレーションモードを開始します。

ステップ6 管理インターフェイスの IP アドレスを入力します。デュアル RP を使用する場合は、両方の管理インターフェイスで IP アドレスを入力します。

ステップ7 管理インターフェイスのネットワーク マスクを入力します。

ステップ8 設定を編集するかどうかを尋ねられます。拒否するには「no」と入力します。

シャーシの設置の確認

シャーシを取り付けた後、次の **show** コマンドを EXEC モードで使用して取り付けと設定を確認します。問題が検出された場合は、さらに設定を行う前に修正を行います。

コマンド	説明
show module	各カードの状態情報を表示します。
show redundancy	スーパーバイザ モジュールの冗長性のステータスを表示します。
n9k-184-Man(config)# show locator-led st	<p>スイッチまたは特定の LED の場所の LED 情報を表示します。</p> <pre>n9k-184-Man(config)# show locator-led st ----- Module Locator LED Status ----- Chassis OFF Module 1 ON Module 5 OFF Module 8 OFF Module 19 OFF Module 20 OFF Module 27 OFF FAN Module 1 OFF FAN Module 2 OFF FAN Module 3 OFF FAN Module 4 OFF PSU Module 4 OFF PSU Module 5 OFF PSU Module 6 OFF PSU Module 7 OFF PSU Module 8 OFF PSU Module 9 OFF</pre>
show inventory	製品 ID、シリアル番号、バージョン ID などの現場交換可能ユニット (FRU) に関する情報を表示します。
show environment	<p>環境関連のすべての情報を表示します。</p> <pre>n9k-184-Man(config)# show environment ? fan Fan information power Power capacity and power distribution information temperature Temperature sensor information</pre>

コマンド	説明
show environment temperature	<p>カード温度センサの温度の読み取りを表示します。各スーパーバイザモジュール、ラインカード、およびファブリックカードには2つのしきい値を持つ温度センサーが搭載されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • マイナー温度しきい値：マイナーしきい値を超えるとマイナーアラームが発生し、4つすべてのセンサーで次の処理が行われます。 <ul style="list-style-type: none"> • システム メッセージを表示します。 • SNMP 通知を送信します（設定されている場合）。 • 環境アラーム イベントをログに記録します。このログは show alarm コマンドを実行して確認できます。 • メジャー温度しきい値：メジャーしきい値を超えると、メジャーアラームが発生し、次の処理が行われます。 <ul style="list-style-type: none"> • センサー 1、3、4（空気吹き出しロセンサーおよびオンボードセンサー）に対しては、次の処理が行われます。 <ul style="list-style-type: none"> • システム メッセージを表示します。 • SNMP 通知を送信します（設定されている場合）。 • show alarm コマンドを実行して確認できる環境アラーム イベントをログに記録します。 • センサー 2（吸気ロセンサー）に対しては、次の処理が行われます。 <ul style="list-style-type: none"> • スイッチングカードでしきい値を超えた場合は、そのカードだけがシャットダウンします。 • HA-standby または standby が存在するアクティブ スーパーバイザ モジュールのしきい値を超過すると、そのスーパーバイザ モジュールだけがシャットダウンし、スタンバイ スーパーバイザ モジュールが処理を引き継ぎます。 • スタンバイ状態のスーパーバイザ モジュールがスイッチに存在しない場合は、温度を下げるために最大2分間待機します。このインターバル中はソフトウェアが5秒ごとに温度を監視し、設定に従ってシステム メッセージを送信しつづけます。 <p>(注) Cisco ではデュアル スーパーバイザ モジュールを取り付けることを推奨します。</p>
show environment power	スイッチ全体の電力使用情報が表示されます。
show environment current	現在の環境ステータスを表示します。

コマンド	説明
show environment fan	ファントレイのステータスを表示します。

次の例は、9800 スイッチの **show environment** コマンドからの出力例を示しています。

```
n9k-184-Man(config)# show environment
Fan:
-----
Fan Model Hw Direction Status
-----
Fan1(sys_fan1) N9K-C980x-FAN-A 1.0 front-to-back Ok
Fan2(sys_fan2) N9K-C980x-FAN-A 1.0 front-to-back Ok
Fan3(sys_fan3) N9K-C980x-FAN-A 1.0 front-to-back Ok
Fan4(sys_fan4) N9K-C980x-FAN-A 1.0 front-to-back Ok
Fan_in_PS1 -- front-to-back Absent
Fan_in_PS2 -- front-to-back Absent
Fan_in_PS3 -- front-to-back Absent
Fan_in_PS4 -- front-to-back Shutdown
Fan_in_PS5 -- front-to-back Ok
Fan_in_PS6 -- front-to-back Ok
Fan_in_PS7 -- front-to-back Ok
Fan_in_PS8 -- front-to-back Shutdown
Fan_in_PS9 -- front-to-back Ok
Fan Zone Speed: Zone 1: 0x80
Fan Air Filter : NotSupported

Power Supply:
Voltage: 54 Volts
Power Actual Actual Total
Supply Model Output Input Capacity Status
(Watts ) (Watts ) (Watts )
-----
1 ----- 0 W 0 W 0 W Absent
2 ----- 0 W 0 W 0 W Absent
3 ----- 0 W 0 W 0 W Absent
4 PSU6.3KW-20A-HV 0 W 0 W 0 W Shutdown
5 PSU6.3KW-20A-HV 992 W 1048 W 3150 W Ok
6 PSU6.3KW-20A-HV 964 W 1024 W 3150 W Ok
7 PSU6.3KW-20A-HV 964 W 1024 W 3150 W Ok
8 PSU6.3KW-20A-HV 0 W 0 W 0 W Shutdown
9 PSU6.3KW-20A-HV 981 W 1045 W 3150 W Ok

Actual Power
Module Model Draw Allocated Status
(Watts ) (Watts )
-----
1 N9K-X9836DM-A 771.00 W 2435.94 W Powered-Up
5 N9K-X9836DM-A 1046.00 W 2435.94 W Powered-Up
8 N9K-X9836DM-A 776.00 W 2435.94 W Powered-Up
Xb19 N9K-C980x-FM-A 233.00 W 574.56 W Powered-Up
Xb20 N9K-C980x-FM-A 238.00 W 574.56 W Powered-Up
Xb21 xbar N/A 0.00 W Absent
Xb22 xbar N/A 0.00 W Absent
Xb23 xbar N/A 0.00 W Absent
Xb24 xbar N/A 0.00 W Absent
```

```

Xb25 xbar N/A 0.00 W Absent
Xb26 xbar N/A 0.00 W Absent
27 N9K-C9800-SUP-A 80.00 W 94.50 W Powered-Up
28 supervisor N/A 94.50 W Absent
fan1 N9K-C980x-FAN-A 170.00 W 686.00 W Powered-Up
fan2 N9K-C980x-FAN-A 187.00 W 686.00 W Powered-Up
fan3 N9K-C980x-FAN-A 176.00 W 686.00 W Powered-Up
fan4 N9K-C980x-FAN-A 175.00 W 686.00 W Powered-Up

```

N/A - Per module power not available

Power Usage Summary:

```

-----
Power Supply redundancy mode (configured) Non-Redundant(combined)
Power Supply redundancy mode (operational) Non-Redundant(combined)

```

```

Total Power Capacity (based on configured mode) 12599.00 W
Total Power of all Inputs (cumulative) 12599.00 W
Total Power Output (actual draw) 3901.00 W
Total Power Input (actual draw) 4141.00 W
Total Power Allocated (budget) 11393.00 W
Total Power Available for additional modules 1206.28 W

```

Temperature:

```

-----
Module Sensor MajorThresh MinorThres CurTemp Status
(Celsius) (Celsius) (Celsius)
-----

```

```

1 CPU 100 98 65 Ok
1 Sone-1 110 100 46 Ok
1 Sone-2 110 100 48 Ok
1 Sone-3 110 100 50 Ok
5 CPU 100 98 79 Ok
5 Sone-1 110 100 71 Ok
5 Sone-2 110 100 69 Ok
5 Sone-3 110 100 65 Ok
8 CPU 100 98 63 Ok
8 Sone-1 110 100 50 Ok
8 Sone-2 110 100 50 Ok
8 Sone-3 110 100 48 Ok
19 Sone-1 110 100 34 Ok
19 Sone-2 110 100 39 Ok
20 Sone-1 110 100 35 Ok
20 Sone-2 110 100 43 Ok
27 OUTLET 85 80 26 Ok
27 INLET 45 42 22 Ok
27 CPU 97 93 44 Ok

```

次の例では、**show environment temperatures** コマンドを使用して、電源が入っている各カードの温度読み取り値を表示します。

```

9k-184-Man(config)# show environment temperature
Temperature:

```

```

-----
Module Sensor MajorThresh MinorThres CurTemp Status
(Celsius) (Celsius) (Celsius)
-----

```

```

1 CPU 100 98 65 Ok
1 Sone-1 110 100 46 Ok
1 Sone-2 110 100 48 Ok

```



```

1 Sone-3 110 100 50 Ok
5 CPU 100 98 80 Ok
5 Sone-1 110 100 71 Ok
5 Sone-2 110 100 68 Ok
5 Sone-3 110 100 65 Ok
8 CPU 100 98 63 Ok
8 Sone-1 110 100 50 Ok
8 Sone-2 110 100 50 Ok
8 Sone-3 110 100 48 Ok
19 Sone-1 110 100 34 Ok
19 Sone-2 110 100 39 Ok
20 Sone-1 110 100 35 Ok
20 Sone-2 110 100 42 Ok
27 OUTLET 85 80 26 Ok
27 INLET 45 42 22 Ok
27 CPU 97 93 43 Ok
n9k-184-Man(config)#

```

次に、**show environment power** コマンドの出力例を示します。

```

n9k-184-Man(config)# show environment power
Power Supply:
Voltage: 54 Volts
Power Actual Actual Total
Supply Model Output Input Capacity Status
(Watts ) (Watts ) (Watts )
-----
1 ----- 0 W 0 W 0 W Absent
2 ----- 0 W 0 W 0 W Absent
3 ----- 0 W 0 W 0 W Absent
4 PSU6.3KW-20A-HV 0 W 0 W 0 W Shutdown
5 PSU6.3KW-20A-HV 992 W 1048 W 3150 W Ok
6 PSU6.3KW-20A-HV 967 W 1024 W 3150 W Ok
7 PSU6.3KW-20A-HV 964 W 1024 W 3150 W Ok
8 PSU6.3KW-20A-HV 0 W 0 W 0 W Shutdown
9 PSU6.3KW-20A-HV 978 W 1045 W 3150 W Ok

Actual Power
Module Model Draw Allocated Status
(Watts ) (Watts )
-----
1 N9K-X9836DM-A 771.00 W 2435.94 W Powered-Up
5 N9K-X9836DM-A 1046.00 W 2435.94 W Powered-Up
8 N9K-X9836DM-A 775.00 W 2435.94 W Powered-Up
Xb19 N9K-C980x-FM-A 233.00 W 574.56 W Powered-Up
Xb20 N9K-C980x-FM-A 238.00 W 574.56 W Powered-Up
Xb21 xbar N/A 0.00 W Absent
Xb22 xbar N/A 0.00 W Absent
Xb23 xbar N/A 0.00 W Absent
Xb24 xbar N/A 0.00 W Absent
Xb25 xbar N/A 0.00 W Absent
Xb26 xbar N/A 0.00 W Absent
27 N9K-C9800-SUP-A 87.00 W 94.50 W Powered-Up
28 supervisor N/A 94.50 W Absent
fan1 N9K-C980x-FAN-A 198.00 W 686.00 W Powered-Up
fan2 N9K-C980x-FAN-A 184.00 W 686.00 W Powered-Up
fan3 N9K-C980x-FAN-A 173.00 W 686.00 W Powered-Up
fan4 N9K-C980x-FAN-A 189.00 W 686.00 W Powered-Up

N/A - Per module power not available

Power Usage Summary:
-----

```

```
Power Supply redundancy mode (configured) Non-Redundant(combined)
Power Supply redundancy mode (operational) Non-Redundant(combined)

Total Power Capacity (based on configured mode) 12599.00 W
Total Power of all Inputs (cumulative) 12599.00 W
Total Power Output (actual draw) 3901.00 W
Total Power Input (actual draw) 4141.00 W
Total Power Allocated (budget) 11393.00 W
Total Power Available for additional modules 1206.28 W
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。